

**千葉県柏市へ目黒町長ら表敬訪問
ふるさと交流のさらなる発展を願い**

4月9日、目黒町長や久保副町長らが柏市役所を表敬訪問し、秋山浩保柏市長と懇談しました。秋山市長は平成21年11月21日に就任され、「みんなで作る安心、希望、支え合いのまち・柏」の実現に向け、市政に取り組んでおられます。

只見町とのふるさと交流は、昭和56年にスタートし平成6年11月19日には「ふるさと交流都市締結」を行いました。今回の訪問で柏市との親交も深まり、これからのふるさと交流事業がさらに充実し進展していくことを期待したいと思います。

▶交流の発展を約束し握手を交わす
目黒町長(右)と秋山浩保柏市長(左)



▲雪のすべり台を楽しむ柏市の子どもたち

**千葉県柏市チューリップフェスティバル
ふるさと交流で只見の雪をプレゼント**

4月10日と11日の二日間、柏市のあけぼの山農業公園などでチューリップフェスティバルが行われ只見町からも8団体が出展参加、そばや岩魚、マトンケバブなど只見ならではの特産品を販売、柏市民の列ができていました。中でも只見の雪で作ったすべり台は大人気で、子どもたちが滑るたびに歓声が響いていました。町では7月に行われる柏まつりなどにも参加、交流の促進を図っていきます。

**今 春待ちチャリティ演芸会
年もこまどり会に7万5千円を寄付**

春待ちチャリティ演芸会は、4月11日に季の郷湯ら里で行われ、約250名の入場者が歌や舞踊など多彩な演目を楽しみました。今回は特別参加で会津万歳や小林おけさも披露され、拍手も一段と大きさを増していました。今年も募金活動で来場者や出演者から寄せられた善意7万5千円を後援会長の飯塚岩夫さんが、NPO法人こまどり会の渡部敏彦理事長に、寄付しました。寄付活動は今回で4回目。



▲渡部理事長(左)に寄付目録を手渡す飯塚さん(右)

只 長岡市河井継之助記念館友の会総会 見町文化財調査委員の飯塚恒夫さんが講演

4月24日、長岡市で長岡市河井継之助記念館友の会総会が開かれ、記念講演として只見町文化財調査委員の飯塚恒夫さんが講演されました。「八十里越と只見代官丹羽族」という演題で、幕末、只見地方の人々が、数千人の長岡藩士らの面倒をみて若松まで落ちのびさせたこと、丹羽族代官が身命を賭して彼らを救ったことなどを話されました。長岡市、東京、埼玉から約200名が出席、聴講しました。



▲ 140年前の歴史秘話を語る飯塚恒夫さん



▲奥会津学習センターで生活をともにする10名

第 只見町山村教育留学生対面式 9期生は10名

只見高等学校に入学した山村教育留学生の対面式が4月8日、只見地区センターで行われ、目黒町長はじめ町教育関係者が第9期生10名と対面しました。留学生は自己紹介で「すべてに積極的に取り組み頑張りたい」などと高校生活への思いを話しました。留学生として10名は過去最高の人数、出身中学校は館岩中が7名、伊南中1名、昭和中1名、若松六中1名となっています。

国 ユビソヤナギ調査体験会 内最大の自生地、伊南川の群落を調査

只見の自然に学ぶ会では、4月18日に亀岡橋周辺の伊南川に生息するユビソヤナギ約170本を調査しました。参加者は8名、残雪の上を歩きながら幹の太さや雌花、雄花の別などを確認しました。同じ調査は3年前にも行われており、今回は前に調査した木の再調査。ほとんどの木が前回の調査記録より約10センチメートルほど幹が太くなっていたことに参加者は驚いていました。



▲ユビソヤナギ一本一本を詳しく調べる参加者

朝 ちょボラごみ拾い 日地区の国道や県道をきれいに



▲ボイ捨てがなくなることを願いごみを拾う参加者

朝日地区センター運営委員会などが主催し、4月29日に行われた、ちょボラごみ拾いには約100名が参加、亀岡地区から榎戸地区までの国道や県道沿いのごみを拾う清掃作業を行いました。曇り空の肌寒い天候のなか参加者は空き缶や空き箱、ペットボトルなどのごみを分別しながら拾いました。集められたごみの量は軽トラック2台分で、中にはガステーブルや古タイヤなどもありました。